



群生することが多い。



葉の表面の主脈が白い。

区別のポイント

日当たりのよい山野に普通に生育する。茎は叢生して大きな株を作る。昔は茅葺き屋根の材料として使用された。花序の長さ 15 から 30 cm、花序の中軸は短く、多くの枝を放射状に出す。小穂は長さ 5 ～ 7 mm で、基部に小穂よりやや長い毛が密生する。

形態 多年草。高さ 1 ～ 2 m。

分布 日本全国

名前の由来 すくすく立つ木（草）という意味。

葉 **〈全体〉**長さ 50 ～ 80 cm、幅 0.7 ～ 2 cm の細長い長線形で硬い。中脈は太く白い。

〈縁〉非常にざらつき時として手を切ることがある。

* 屋久島の高所型のススキは葉の幅 1 cm 未満、高さ 50 cm 程度と、非常に小型化している。

備考 地域によっては採餌する。食性ステージの変化で採餌種になる可能性。

出典 1